

愛媛から魚文化の情報を発信するフリーマガジン「Eのさかな」

森実庸男

昨年4月から愛媛県の魚を中心に食、自然、観光、文化などの情報を全国に紹介する標題のフリーペーパーが愛媛県内の道の駅などのほか、東京や大阪などの大消費地の様々な所のラックに置かれています(写真1)。タイトルにある「E」は「えひめ」のEであり、キャッチフレーズは、「みかんだけじゃない愛媛県。えひめは水産王国だ!!」です。発行所は愛媛県松山市にある印刷会社の佐川印刷株式会社で、佐川社長の経営理念は「印刷を通じて地域社会に貢献する」としています。地元で思い入れのある社長は、近年元気がない水産業を盛り上げるために始めた

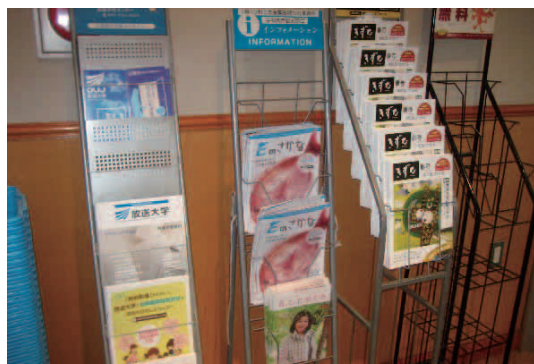


写真1 配置されている「Eのさかな」

言っております。愛媛の魅力を知らない方へさかなを通じ、魅力を伝えていくことが地域活性化につながる、これが発行の目的としています。発行頻度は年4回で、基本的に毎回1種の魚をテーマとして取り上げ、魚の形態・生態などの概説、風土や観光、料理法、その魚を食べられるレストラン・料理屋などを題材にして掲載しています。

そもそも魚のフリーペーパーは、石川県の印刷会社の中にある「能登カルチャークラブ」が「Fのさかな」というフリーマガジンを10年くらい前から発行しています。「F」の意味は石川県の地形を表すものであり、さらにFish、Fresh、Friendly、Food、Family、Fight、Freeの頭文字を意味するとしています。最近号が38号となっているほど長く続けており、内容が充実して質の良い紙面となっています。そのため、2011年よりARUNOアワード、日本タウン誌・フリーペーパー大賞を6年連続で受賞するなど高く評価されています。また、このマガジンを発行する上での協力機関・団体が多いと見受けられ、石川県内での信頼や評価も高いように思われます。

このような「Fのさかな」の活躍を見ていた佐川社長と石川県の印刷会社社長が元々知り合いであったことから、「愛媛でもやりたい」と石川側に相談したところ、石川側から「協力してやりましょう!」と快諾されたと聞いています。「Fのさかな」を参考に愛媛オリジナルの誌面制作をおこない、「Eのさかな」と「Fのさかな」は姉妹紙として相互にPRに努めています。

「Eのさかな」は現在までに6号を発刊し、1号から順にマダイ、ハモ、ブリ、スマ、カツオ、マダコをテーマとしてきました(写真2)。魚そのものを紹介する記事は、「*一嘗三嘆」というコーナーにあり、筆者を含めた愛媛県水産職OB2名が担当しています。今後も愛媛の主要な魚であるガザミ、マハタ・クエ、サワラ、マアジ・マサバ、クロマグロ、ホタルジャコを紹介していく予定になっていますが、兄貴分にあたる「Fのさかな」に負けないう、内容を充実していきたいと思っています。会員の皆様には資料探しや知見の情報提供な

どをお願いする機会がありましたら、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、「Eのさかな」のwebサイトは次のとおりで、本紙が置かれている場所もわかります。

<https://www.ehime-e-sakana.com/>

「*一嘗三嘆」：愛媛県松山市出身の俳人正岡子規が友人・清水則遠氏に宛てた書簡の中で、故郷の美味しい鯛料理を「一口食べると、何度も感動するほど美味しい」と紹介する際に用いた子規オリジナルの造語。



写真2 「Eのさかな」1-6号